

## 感情に関わる質問表現の機能の男女差

小山友里江

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

koyama.yurie@e.mbox.nagoya-u.ac.jp

### 1. はじめに

本研究では日本語母語話者が初対面場面の会話の中で感情に関わる質問表現の機能をどのように使用しているか、特徴と傾向を男女差の観点から分析する。

### 2. 先行研究

<質問文>

南 (1985) : 質問文と質問でない文を分類。

安達 (1999) : 日本の疑問文の特徴は聞き手への情報の要求や話し手の感情の表出や聞き手に対する行為要求。

森山 (2000) : 疑いだけを表し、聞き手へ回答を表さない場合もある。例: 彼は正しいだろうか。

仁田 (2003) : 日本語の疑問文は、質問しようとしている情報の性質や聞き手がその情報を知っていると見込まれるかどうかなどによってさまざまな形式がある。

<男女差>

コーツ (1990) : 男性→情報を求めるために質問を使用する。

女性→質問は会話が続く保証、会話の流れを促進させるために使用する。

Tannen (1990) : 男性の会話スタイル→相手と話すことで自分の知識や情報を見せたい。

女性の会話スタイル→相手と似たような経験・考えを話すことで親近感を作る。

Fitzpatrick (1995) : 会話相手の性だけでなく、会話相手で男女の言語が大きく左右する。

<感情>

同調 : 有倉 (1996)

人が常に心的な安定を求めようとするために起こる。

自分が好かれないと思う→自分を意識している。

自分を意識している状態は、自分のどのような側面を意識しているかによって2つに分けることができる。

1. 私的自己意識：自分の価値観や態度といった側面に注意が向いている状態
2. 公的自己意識：自分の顔やスタイルといった側面に注意が向いている状態

#### 共感：春木・岩下（1975）

ある人が感情（情動）状態を体験し、それが表出されているとき、それにさらされた他の人が同じような感情状態を体験し、表出するようになること。

### 3. 本研究の質問の認定

南（1985）と森山（2000）の質問の認定を引用し、以下の2つの条件を満たすものを質問とする。

1. 相手がいることが前提である言語表現
2. 提示したものについての情報の提供を要求する場合、要求しない場合も含める。  
例：彼は正しいだろうか。（森山 2000）  
例：今、何時だろう。（森山 2000）

### 4. 質問のパターン

仁田（2003）を参考に質問を3つのパターンに分類。

- ① 真偽疑問文（Yes-No Question）
- ② 補充疑問文（WH Question）
- ③ 選択疑問文（Alternative Question）

### 5. 質問表現の機能

吉田（2008）を参考に、以下の4つに分類。（以下の5つの例文は筆者による作例である。）

1. 事実の情報：会議は明日ですか？
2. 同意・同調：夏休みはどこか行きたいよね？（同意）  
バイト先の先輩に怒鳴られたのは辛いよね？（同調）
3. 意見や感想：昨日の映画どうでした？
4. 意味交渉：今、何と言いました？

## 6. 調査方法

調査期間：2010年5月7日～6月15日

対象者：学部1年生

男性10名（18歳～21歳）、女性10名（18歳）

会話：2人1組 男性同士（男×男）5組 / 女性同士（女×女）5組

異性間（男×女）10組

形式：15分間の自由会話

自由会話後に個別に10分間のフォローアップ・インタビュー

## 7. 調査結果

同意・同調を求める質問の頻度は男女共に同じ傾向がみられた。

同調の質問を使用する場合、会話相手が異性の場合、男女で同調の質問に異なった目的がみられた。実際の会話データを以下に示す。

男A→女B

A：正直あれ、怖なかった？

B：えっ？

A：クライテリオンとかあっち。

女A→男B

B：L大学とか言われてさー、マジかよと思って。

A：うーん、自分より上だと怖いよね？

B：うん、怖い。

A：こいつは案外とか思われたくないよね？

## 8. 考察

男女共に同調の質問がみられた。しかし、同調の使用に以下の違いがみられた。

①同調の使用目的が男女で異なる。

男→女：自分の心境について同調を求める。

女→男：相手の心境に同調する。

## ②同調と共感

女性が男性に同調している質問は共感である。

男性の場合は同調、女性の場合は共感を相手に求める質問を行う傾向があると考えられる。

## 9. 今後の課題

同調、共感のように男女では質問の使用目的が異なることが明らかになった。次に個人差をみていく。同一人物が相手の性別でどのような質問の使い分けを行っているかを追究していく。

## 参考文献

安達太郎 (1999) 『日本語疑問文における判断の諸相』 くろしお出版.

ジェニファー・コーツ (1990) 『女と男とことば—女性語の社会言語学的研究法—』 研究社出版  
171-184.

仁田義雄 (2003) 本語記述文法研究改 (編) 『現代日本語文法 4 第 8 部 モダリティ』  
くろしお出版.

春木豊・岩下豊彦 (1975) 『共感の心理学』 川島書店.

南不二男 (1985) 「第 2 章 質問文の構造」 水谷静夫 (共編) 『朝倉日本語新講座 4 文法と意味 II』  
朝倉書店 39-74.

森山卓郎 (2000) 『ここからはじまる日本語文法』 ひつじ書房.

有倉巳幸 (1996) 「好かれない心理・嫌われたくない心理—同調行動はなぜ起こるか—」  
『児童心理』 50 (16) 17-23.

Fitzpatrick, M., A. Mula, and K. Dindia. (1995). Gender-preferential language use in spouse  
and stranger interaction. *Journal of language and Social Psychology*, 14, 1-2, 18-39.

Tannen, Deborah. (1990). *You just Don't understand: Men and Women in Conversation*. New  
York: Ballantine Books.